

# 「VHF帯放送番組中継回線の利用促進のための周波数有効利用技術に関する調査検討会」の概要

＜開催趣旨＞ ラジオ放送は、防災・減災の観点から地域の情報を発信する媒体としての重要性が高まりつつあり、中波（AM）放送のFM補完中継局の設置やコミュニティ放送の中継局整備が進められている。これらに使用される放送番組中継回線（STL/TTL）として、VHF帯（60MHz帯及び160MHz帯）の無線回線の需要が高まっており、同じ周波数帯を使用する他の無線システムとの共用条件等を技術的に検討することが必要なことから、標記の調査検討会を開催する。

## 背景と課題

■ VHF帯（60MHz帯及び160MHz帯）は、放送事業用の他、防災行政無線を始めとする公共業務用及び自動車運送等の一般業務用の各種の無線システムが混在

■ 現在、小規模の放送番組中継回線がデジタル化され、自システム間の混信保護基準は規定されているが、異システム間の汎用的な共用基準は定められていないため、従来からのシステム間のガードバンドの考え方が踏襲されており、周波数の利用効率が悪い状況

■ VHF帯STL/TTL無線局の増加の対策として、同じ周波数帯を使用し、需要が増加している防災行政無線等との混信保護基準等を明確にして共用条件を整理するため、周波数有効利用に資する技術的検討を行うことが必要

## 信越総合通信局の取組

### 調査検討会の開催

放送番組中継回線として割り当てられている60MHz帯及び160MHz帯と同一の周波数帯を使用し、需要が増加している防災行政無線等との混信保護基準等を明確化するとともに、共用条件案等の検討を実施

（平成29年度）

### 成果報告

## 総務本省の取組

### 電波法関係審査基準の見直し等

（平成30年度目途）

